

臨床検査は、正しかったのか。

治療の効果は、あったのか。

病気の発生機序は、何か。

合併症や偶発病変は、あったのか。

本当の死因は、何か。

毎年のように先端的な検査項目や機器が開発されますが、獣医病理診断医が行う死後検査は今もなお、最も正確な、いわば「答え合わせ」のための検査であり続けています。生前に診断されていた疾患と、死をもたらした原因が異なること（合併症や偶発病変）がありますし、我が国で今まで存在が認識されていなかった疾患が発見されることもあります。死後検査は、何が起こっていたのか実際に見ることにより、潜在病変の影響や他の様々な臓器・組織に生じている変化を総合的に把握することができます。弊社では、顕微鏡的な検査所見はさることながら、臨床データや様々な他の検査・分析の結果を総合して、動物の健康を守るチームの、目立たないが重要なメンバーとして、皆様と協働していきたいと考えています。

何が起こっていたのかを、  
実際に見る、病理検査。



ノーバウンダリーズ  
動物病理 No Boundaries  
Animal Pathology

詳しくはWEBサイトをご覧ください。 [no-boundaries.jp](http://no-boundaries.jp)